

## 2021年度 研究センター事業報告書

研究センター名	地域健康社会学研究センター
---------	---------------

**I. 研究成果の概要（公開項目） ※1ページ以内にまとめること**

本欄には、研究センターの実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、項目立てなどをおこなってできるだけわかりやすく記述してください。

**1. 地域健康社会学プロジェクト研究の推進**

寄付研究プロジェクト（2016年4月発足）時の主旨を引き継ぎ、住民の参加・協働による地域健康創出をめざす基礎的研究、歴史・実践研究、現状分析・方法開発の総合的な研究を行った。予防要因分析を通して政策構築に資する疫学研究の手法を用いて健康創出の社会的課題を明らかにするとともに、次の諸課題にわけて研究を推進した。

1. 京都における地域健康の歴史と実践
2. 福島の経験にもとづく地域健康づくりの現代的課題の追究
3. 地域健康社会学の創出と総合人間学の基礎的研究

2021年度の主な取り組みは、2020年度に引き継ぎ、当センターと滋賀県健康医療福祉部と協働で実施した滋賀県国民健康保険加入者の健康福祉データ分析（5年間の国民健康保険医療費データ、国保特定健康診査データ、介護保険受給データを使用したコホート研究）をもとに、県保健事業部会において、県下全市町へフィードバックを行った。

特に、この分析結果をもとに、滋賀県健康医療福祉部は、次期データヘルス計画策定に向けた標準化の検討する資料として活用している。県は新たにデータを統括して市町ごとに健康チャートを作成する事業を計画している。センターからのフィードバックは、単に公衆衛生学的知見にとどまらず、社会格差、地域格差、社会資本等の「社会的要因」も含めた地域健康社会学の視点も含めている。

地域健康の歴史と実践として、認知症の人と家族の会において、認知症は特別な病気ではなく、人生の延長線上にあるものという捉え方で、健康課題を「自分ごと」と捉える視点を検討している。家族の会も設立から40年以上経ち、会員の世代交代や、社会における認知症への理解も変わってきており、時代にあった視点を検討している。

福島県での地域健康づくりについては、引き続き郡山市保健所とともに、地区診断、健康格差について分析、評価を行っている。幼児のむし歯保有率の地域格差が大きく、高齢者との同居が多い地区で高くなっていることから、祖父母世代へのアプローチが有効と考えられた。東日本大震災後、小中学生の肥満が増加しており、将来の成人の肥満につながる事が予想され、学校関係と連携した肥満予防の意識向上や啓発事業が必要である。

**2. 外部資金獲得の推進**

センターの運営資金として寄附金を保有するほか、厚生労働行政推進調査事業費等を獲得している。また、個別の研究課題推進のため、科研費への申請も積極的に行った。センター長の早川が滋賀医科大学との共同研究を行い、疫学、公衆衛生学の観点から地域医療の可能性を模索するとともに、産学官連携や外部資金の獲得を見据えた研究を行った。全国から無作為抽出した対象者を追跡したコホート研究において、社会的要因に関する分析研究を行っている。

**3. メディア媒体を使用した発信及び社会貢献**

センターウェブサイト、ソーシャルメディアにおける積極的な発信を行うとともに、各メディアの特性を生かした独自の情報発信についても工夫や分析を行い、より効果的な情報発信に努めた。

また、当初より取り組んでいる地元ラジオ局の番組について、引き続き小学生目線で観た地域の高齢者への作文を発信した。これらの作文を蓄積し、また、地域における高齢者の存在意義を抽出していくことで、高齢者・子ども・地域の役割を明らかにし、地域社会への貢献と研究素材の抽出を相互に行った。また、ラジオ番組での取組みを契機に小学生への出前授業を行い、日本の高齢化問題に対する相互理解を深めた。

2021年度も、2020年度に引き続き、感染拡大している新型コロナについて読売新聞からの取材を受け、社会状況に対するコメントを行った。また、大学コンソーシアム京都の依頼により、コロナ禍における「京都学生祭典」の進め方について助言を行った。

**4. その他研究活動とその展開**

滋賀県は全国平均寿命都道府県ランキングで日本有数の長寿県である。2017年度より、滋賀県衛生科学センターから「滋賀県データ活用事業プロジェクト会議」メンバー（座長）の就任依頼を受け、健康や医療、介護など滋賀県健康寿命延伸のための各種データを一体的に分析・活用し、市町や件における予防的な取組みの推進を図っている。

滋賀県健康医療福祉部医療保険課が県下市町に実施している、国民健康保険運営方針等検討協議会保健事業部会で学識経験者として参加し、運営方針に対して助言を行っている。

また、京都府下、福島市を始めとした自治体にて、「地域に責任を持った保健活動の強化」をテーマとして講師を務めるなど、各種団体における講演依頼や委員委嘱依頼を積極的に受け、研究の今後の展開につなげている。



1	松田 亮三	Coronavirus Politics: The Comparative Politics and Policy of COVID-19.	共著	2021年	University of Michigan Press	Takashi Nagata, Akihito Hagihara, Alan Kawarai Lefor, Ryozo Matsuda, and Monika Steffen	
2	中村 正	たのしく学ぶ社会福祉: 誰もが人間らしく生きる社会をつくる (新・MINERVA 福祉ライブラリー 41)/ 第2章 家族をとおして社会を考えてみる—親密な関係における社会病理とジェンダーの視点から	分担執筆	2021年 5月	ミネルヴァ書房	中村正、◎丹波史紀、石田賀奈子、黒田学	
3	中村 正	どうする日本の家族政策 (いま社会政策に何ができるか 3): 分担執筆「DV・子ども虐待加害者の脱暴力化支援—親密な関係性における暴力への介入」	分担執筆	2021年 11月	ミネルヴァ書房		
4	佐藤 達哉	Jaan Valsiner in Japan: The Trajectory Equifinality Approach (TEA)	共著	2021年 10月	SpringerIn: Wagoner B., Christensen B.A., Demuth C. (eds) Culture as Process.	Sato T., Tsuchimoto T., Yasuda Y., Kido A.	443-453
5	佐藤 達哉	臨床心理学史	単著	2021年 11月	東大出版会		
6	佐藤 達哉	文化心理学の立場から; 「実存の表現の多様性」の光と影	単著	2021年 12月	新曜社ソーシャル・コンストラクショニズムと対人支援の心理学	サトウタツヤ	79-100
7	佐藤 達哉	流れを読む心理学史 補訂版	共著	2022年 2月	有斐閣	サトウタツヤ・高砂美樹	

2. 論文								
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌、巻・号数	その他編者・著者名	担当頁数	査読有無
1	松田 亮三	医療機構のレジリエンス: COVID-19 流行初期対応での課題	単著	2021年	日本医療福祉政策学会医療福祉政策研究 4(1)	松田 亮三	1-11	
2	松田 亮三	社会保障・社会福祉におけるサービス提供—必要と給付の間で	単著	2021年 4月	ミネルヴァ書房丹波史紀・石田賀奈子・黒田学・長谷川春編著 たのしく学ぶ社会福祉誰もが人間らしく生きる社会をつくる			
3	松田 亮三	ゲノム情報を用いた健康予測サービス: 課題と政策的含意	単著	2021年 7月	保健医療社会学論集 32(1)	松田亮三	3-13	
4	松田 亮三	健康課題のグローバルな緊密化をふまえた共通理念: 健康権と普遍医療給付 (特集 コロナ禍を考える(6)今後に向けて)	単著	2022年 1月	非営利・協同総合研究所のちとくらしいのちとくらし研究所報 (77)	松田 亮三	38-42	
5	中村 正	臨床社会学の方法 (33) その「ナラティブ」は誰の言葉なのか—沈黙という声、内なる他者の声、支配的な声—	単著	2021年 6月	対人援助学会対人援助学マガジン 12(1)			
6	中村 正	パワーハラスメント加害者に対する行動変容の支援—ナラティブ・セラピーによる対話をとおして	単著	2021年 6月	都市問題 2021年 6月号			
7	中村 正	学校のなかの「差別」を考える (3) マイクロアグレッションについて	単著	2021年 6月	教職研修 49(10)			
8	中村 正	臨床社会学の方法 (34) 関係の非対称性と権力の勾配 —「俺のとなっている講義が休講になったのでこれから会いたい」とラインで言われた女子学生と考えたこと	単著	2021年 9月	対人援助学会対人援助学マガジン 12(2)			

		-						
9	中村 正	臨床社会学の方法(35) 行方不明の<加害者>たちーコミュニケーションの微細な懸隔	単著	2021年12月	12(3)			
10	中村 正	児童福祉において「男性問題としての暴力」をいかに扱うかー男親と「暴力と加害・責任」の対話を拓く試み	単著	2021年12月	日本子ども虐待防止学会 23(3)			
11	中村 正	臨床社会学の方法(36) 暴力の文化ーMicro Action for Violence-Free プロジェクト構想ー	単著	2022年3月	対人援助学会対人援助学マガジン 12(4)			
12	佐藤 達哉	ナラティブの心理学	単著	2021年4月	日本コミュニケーション障害学会コミュニケーション障害学 38(1)		75-78	
13	佐藤 達哉	ヤーンの古希を言祝ぐ：日本ならびに立命館大学における TEM とヤーンのネットワークの拡大(2) 2009年からー対人援助学&心理学の縦横無尽(30)	共著	2021年6月	対人援助学会対人援助学マガジン 45		85-99	
14	佐藤 達哉	対人援助学&心理学の縦横無尽(31)	単著	2021年9月	対人援助学マガジン(46)		97-99	
15	佐藤 達哉	対人援助学&心理学の縦横無尽(32)	単著	2021年12月	対人援助学会対人援助学マガジン 47		108-112	
16	佐藤 達哉	教師のための認知バイアス入門	単著	2022年1月	明治図書道徳教育 62(1)		38-41	
17	佐藤 達哉	対人援助学&心理学の縦横無尽(33)	単著	2022年3月	対人援助学会対人援助学マガジン(48)		106-111	
18	佐藤 達哉	TEA(複線径路等至性アプローチ)における記号概念の考察ーパス、ヴィゴークキー、ヴァルシナーを手がかりに	共著	2022年3月	立命館大学人間科学研究科立命館人間科学研究(44)		15-31	
19	佐藤 達哉	TEM(複線径路等至性モデリング)の新たな理論的展開ー記号圏とイメージーション理論を踏まえて	共著	2022年3月	(44)		49-64	
20	山口 洋典	PBLの風と土：(17) 地に吹く風と土に寄せる波が境を越える	単著	2021年6月	対人援助学会対人援助学マガジン 12(1)	山口洋典	243-248	
21	山口 洋典	PBLの風と土：(18) 活動させる教育を共に場をつくる学習へ	単著	2021年9月	対人援助学会対人援助学マガジン 12(2)	山口 洋典	207-212	
22	山口 洋典	PBLの風と土：(19) 適度な親密さで公正・誠実な関係構築を	単著	2021年12月	対人援助学会対人援助学マガジン 12(3)	山口洋典	196-201	
23	山口 洋典	トランスビューからマルチビューへの展開を通じた経験の物語化への方法論：ボランティア体験の言語化を促進する実践的研究へアプローチとして	共著	2022年2月	国際ボランティア学会ボランティア学研究 22	山口 洋典・北出慶子・遠山千佳・村山かなえ・安田裕子	97-112	
24	山口 洋典	PBLの風と土：(20) 変容的關係での学習環境で学びと成長を	単著	2022年3月	対人援助学会対人援助学マガジン 12(4)	山口洋典	201-206	

25	山口 洋典	経験学習型教育における「書くこと」を通じた学生の学び—立命館大学サービス・ラーニング科目におけるリフレクティブ・ライティング—	共著	2022年3月	立命館大学教育開発推進機構 立命館高等教育研究	木村充・河井亨・山口洋典・秋吉恵・宮下聖史	85-98	
----	-------	---	----	---------	----------------------------	-----------------------	-------	--

3. 研究発表等					
No.	氏名	発表題名	発表年月	発表会議名、開催場所	その他発表者名
1	松田 亮三	新型コロナウイルス感染症への公衆衛生上の対応—揺らぎをふまえた感染症対策へ	2021年5月	地域社会学会第46回大会シンポジウム	
2	松田 亮三	欧州における新型コロナウイルス感染症の影響と対応—社会保護上の対応を中心に	2021年11月	日本地域経済学会第33回大会共通論題	
3	松田 亮三	Maintaining universal coverage in the era of widening inequalities: Challenges in the Japanese statutory health insurance	2022年3月	The 2nd Forum on Welfare State and Social Policy	
4	中村 正	Some significant points of considering Japanese experience of therapeutic jurisprudence in the field on domestic violence	2021年6月	Asian Criminological Society 12th Annual Conference	
5	中村 正	若年者と司法福祉	2021年12月	第21回日本司法福祉学会	
6	中村 正	刑事司法はく社会問題>をどのように視野に入れるか—「情状」とは何かをとおして考える	2022年1月	第37回日本社会病理学会	西谷裕子、市川岳仁、後藤弘子、指宿信
7	中村 正	ステイホームとケアリーパーケアリーパーがコロナ禍の社会を生きるということ	2022年1月	第13回対人援助学会	浦田雅夫、ブローハン聡、
8	佐藤 達哉	裁判員制度における評議のグッド・プラクティスへのコメント	2021年5月	2021年度日本法社会学会	サトウタツヤ
9	佐藤 達哉	Nursing Teachers' Ability Formation Process in the TEA Method Approach: Three Layers Model of Genesis Focusing on Instructor K's internal dialogue.	2021年6月	Nursing Teachers' Ability Formation Process in the TEA Method Approach: Three Layers Model of Genesis Focusing on Instructor K's internal dialogue.	Tanaka, C., Sato, T., Miyashita, T., & Tsuchimoto, T.
10	佐藤 達哉	An Introduction to Trajectory Equifinality Approach: Theory and Practice.	2021年6月	11th International Conference on the Dialogical Self	Sato, T., Tsuchimoto T., Miyashita, T., & Tanaka, C..
11	佐藤 達哉	Dialogical Self during school-to-work transition :comparison between Japan and Brazil.	2021年6月	11th International Conference on the Dialogical Self	Banda, K., Yasuda, Y., Ieshima, A., Tsuchimoto, T., Mattos, E., & Sato, T.
12	佐藤 達哉	文化とともにある看護教員の力量形成過程—分岐点におけるイメージネーション理論を用いて	2021年8月	日本看護学教育学会第31回学術集会	田中千尋・横山直子・サトウタツヤ
13	佐藤 達哉	裁判員裁判の評議における意見変容プロセスの分析	2021年10月	第22回法と心理学会	杉本菜月・中田友貴・サトウタツヤ
14	佐藤 達哉	未必的殺意の説示と理解の過程—模擬評議の質的分析を通じて—	2021年10月	第22回法と心理学会	杉本菜月・サトウタツヤ

15	佐藤 達哉	TEA の新展開—想像／構想力、展結、関係構造との関連を中心に—	2022年 1月	対人援助学会第19回大会	サトウタツヤ
16	山口 洋典	The process of learning and growing of peer supporters through place management: for curriculum and co-curriculum hybridization	2021年 8月	PBL2021 International Conference	Hironori Yamaguchi, Kanae Murayama, Keiko Kitade, Chika Tohyama and Yuko Yasuda
17	山口 洋典	資本主義・ポスト資本主義の境界領域を問う：心、実践、社会システムのあいだ	2021年 9月	日本グループ・ダイナミクス学会第67回大会	香川秀太・山口洋典・宮本匠・大石尚子・荒川歩
18	山口 洋典	広島エクスカッション・研究会 Day2	2021年 10月	日本ソーシャル・イノベーション学会第3回大会	
19	山口 洋典	資本主義とポスト資本主義の境界領域を探る：政策、美的科学、政治哲学のあいだ	2021年 10月	日本質的心理学会第18回大会	香川 秀太・宮本 匠・山口 洋典・大石尚子・日比野 愛子・無藤 隆
20	山口 洋典	Creating a Future of Service-Learning in Japan: Reviewing Political Context and New Mission of Engaged Campus	2021年 11月	IARSLCE 2021 Virtual Gathering	Hironori Yamaguchi, Kyoko Ichikawa, Atsuko Kuronuma, Takeshi Miyazaki
21	山口 洋典	How Service-Learners Deepen Their Relationships and Design Their Lives: Introducing the Metaphor of Earth, Wind, and Waves in Disaster Revitalization Programs	2021年 11月	IARSLCE 2021 Virtual Gathering	Hironori Yamaguchi, Megumi Akiyoshi, Toru Kawai, Seishi Miyashita
22	山口 洋典	キーノートスピーチ「ポスト COVID-19 における越境的支援のかたち」	2022年 2月	国際ボランティア学会第23回大会	今井紀明・宗田勝也・山口洋典
23	山口 洋典	パネルディスカッション「再論・大学と震災とボランティアセンター」	2022年 2月	国際ボランティア学会第23回大会	赤澤 清孝・其田 雅美・川原 直也・山口 洋典

4. 主催したシンポジウム・研究会等					
No.	発表会議名	開催場所	発表年月	来場者数	共催機関名
1	〇〇シンポジウム	衣笠キャンパス	2014年 9月	100名	財団法人〇〇、××大学〇〇研究所
2	第3回〇〇研究会	キャンパスプラザ 京都	2014年 11月	10名	なし

5. その他研究活動（報道発表や講演会等）				
No.	氏名	研究業績名	発表場所等	研究期間
1	佐藤 達哉	TEA（複線径路等至性アプローチ）は家族心理学に貢献できるか？	第38回日本家族心理学会	2021年 11月

6. 受賞学術賞					
No.	氏名	授与機関名	受賞名	タイトル	受賞年月
1	山口 洋典	日本質的心理学会	第13回日本質の学会学会賞	優秀アクションリサーチ論文賞：メタファーを通じた災害復興支援における越境的対話の促進—新潟県小千谷市塩谷集落・復興10年のアクションリサーチから（山口洋典・渥美公秀・関嘉寛による『質的心理学会研究』18号、2019年、pp.124-142）	2021年 10月

7. 科学研究費助成事業						
No.	氏名	研究課題	研究種目	開始年月	終了年月	役割
1	松田 亮三	多様化する社会における福祉体制の動態—日韓台比較研究を通じた理論開発	基盤研究(B)	2020年 4月	2024年 3月	研究代表者

2	中村 正	脱刑事罰処理を支える「治療法学」の確立に向けた学融的総合的研究	基盤研究(A)	2019年4月	2024年3月	研究分担者
3	中村 正	男性性と暴力の臨床社会学的研究	基盤研究(C)	2019年4月	2022年3月	研究代表者
4	山口 洋典	市民性涵養の関係性モデルを軸とした地域参加学習カリキュラムと教授法の開発	基盤研究(C)	2018年4月	2023年3月	研究代表者
5	山口 洋典	日本語支援者の学び解明と促進を目指した多文化サービスラーニングの開発	基盤研究(C)	2019年4月	2022年3月	研究分担者

8. 競争的資金等(科研費を除く)						
No.	氏名	研究課題	資金制度・研究費名	採択年月	終了年月	役割
1	佐藤 達哉	人文社会科学の復興知に基づく標葉地域の循環型共同教育の実践		2021年6月	2026年3月	研究代表者
2	中村 正	フォスタリング・ソーシャルワーク専門職講座の開講	日本財団助成金	2021年4月	2022年3月	研究代表者

9. 知的財産権								
No.	氏名	名称	出願人区分	発明人区分	出願番号	公開番号	登録(特許)番号	国
1	立命太郎	特許(国内)	本人単独	筆頭発明者	****	****	****	日本